

平成29年度事業報告

第1 概況

シルバー人材センター事業（以下、「シルバー事業」という。）は、定年退職者等、高齢者に働きがいと生きがいを与え、活力ある地域社会の実現に大きな役割を果たしてきているが、近年は定年年齢を65歳以上に引き上げた一般企業、シルバー事業と類似の業務を行うNPO等の増加により定年を過ぎた高齢者の就業の選択枝が増え、県下のシルバー人材センター（以下、「センター」という。）の多くは会員の拡大に苦慮している。

また、運営面では国・自治体からの補助金が一定の水準まで確保されているものの、内容が従前の運営費補助から事業費補助と変わりつつあり、事業の組み立てに工夫をこらすことが求められた。

こうした中、シルバー事業の更なる活性化を目指して策定された「三重県シルバー人材センター連合会第3次中期計画」により受注の面、会員拡大の面で目標を設定して事業を展開してきたところである。

事業の面では、地域課題の解消の担い手とされる介護周辺業務、育児支援を中心とした福祉・家事援助サービス事業、介護予防・日常生活支援総合事業などを推進するとともに、「高齢者活躍・現役世代雇用サポート事業」の積極的な活用を通じ、現役世代の下支えや人手不足分野での労働力確保に貢献すべく、該当事業を推進する事が出来た。

受注面では、平成30年3月末現在の請負による契約金額は49億7千万円程度で、前年度比▲4.1%となっている。一方派遣での契約金額を同様に比較すると、9億5千万円程度となり、前年度比51.2%の増加となっている。この派遣事業での実績が請負での減少を補完しているが、派遣就業を行う会員の数が伸びない現状があるため、派遣就業の今後の動向に注視する必要がある。

新規会員の拡大については、会員拡大を最優先課題として各センターでは種々の取組みを行い、連合会でもセンターの行う啓発活動への支援、ハローワークにおけるシルバー事業の説明会場提供依頼などで会員拡大の取組みを行っているが、対前年同月比では減少傾向が続き、改善にはなっていない。

現在の会員の状況については、平成30年3月末現在で29年3月末現在に比べ86名の減少となった。4月～5月にかけて会員の数が減少する傾向にあるため、センターへはこれへの対策も示した。

就業機会の開拓については、センターに登録する会員数が伸び悩み、高齢化がさらに進展する中では、単に開拓するだけでは会員の適正な就業に繋がらず、就業先と会員のマッチングが今まで以上に重要となる。

個別の事業実施状況は次のとおりである。

第2 事業実施状況

1 シルバー人材センター事業

(1) 安全及び適正就業推進事業

シルバー事業の運営にあたっては、「安全はすべてに優先する」の観点から会員の安全への意識啓発、事故防止対策に組織を挙げて取り組んだが、死亡1件を含む2件の重篤事故が発生した。

また、派遣就業の拡大に伴い、労働者派遣関係等の労働関係法令に沿った就業の適正化に努めた。

ア、三重県安全・適正就業推進大会の実施

日時 平成29年7月13日

場所 ベルセ島崎

参加者 21センター、78名

内容 平成29年度安全就業スローガン優秀作品表彰

桑名市センター会員 伊藤 勝彦 氏

名張市センター会員 福岡 隆壽 氏

講演「転倒・転落災害防止の取り組み」

中央労働災害防止協会 各務 博幸 氏

イ、安全・適正就業パトロールの実施

安全・適正就業対策推進委員会、センター安全就業対策推進員等の協力を得て、7センターに於いて実施した。各センターでの取り組み状況の聴取及び作業現場における安全就業確認等の安全パトロールを実施した。

実施センター名	実施日
東員町シルバー人材センター	平成29年9月13日
木曽岬町シルバー人材センター	平成29年9月14日
四日市市シルバー人材センター	平成29年9月20日
亀山市シルバー人材センター	平成29年9月26日
津市シルバー人材センター	平成29年10月6日
松阪市シルバー人材センター	平成29年10月3日
玉城町シルバー人材センター	平成29年10月5日

ウ、平成28年9月に策定された「シルバー人材センターの適正就業ガイド

ライン」を踏まえ、会員の適正就業を確保するため、就業実態に応じた請負・委任または労働者派遣による契約について、センター職員、会員、発注者への啓発を徹底するよう配布資料を作成して行った。

エ、各センターが実施する研修会に講師を派遣するとともに、就業機会創出員研修会においても安全・適正就業の徹底を図った。

(2) シルバー派遣事業

シルバー派遣を行う 16 センターについて、事業実績は拡大し、受注件数、契約金額とも前年度に比べ大幅な増加となった。

ア、派遣システムに係るセンター担当職員の研修会を実施した。

平成 30 年 1 月 18 日 場所、ベルセ島崎 参加者 25 名

イ、派遣元責任者講習の受講

平成 29 年 11 月 10 日、名古屋市、参加者 12 名(他会場 5 名)

(3) 普及啓発事業

県内全域を対象に、シルバー人材センターの理念や事業内容を周知して、シルバー事業の理解と参加を求めるために、あらゆる機会をとらえて普及啓発活動を実施した。

ア、広報誌「シルバーみえ」第 35 号の発行

センターの活動内容、年間実績等を掲載し、普及活動に努めた。

平成 29 年 12 月 13,200 部作製配布。

イ、会員募集チラシ、ポスターの作成及び配布

シルバー事業について、地域住民、企業等に理解・協力を広めるとともに、会員の拡大や仕事の発注を促すため、会員募集チラシを作製配布した。

また、三重県の協力を得て県内コンビニでの会員募集チラシ・ポスターを配布・掲示することにより普及啓発を行った。

ウ、普及啓発促進月間及び「シルバーの日」を中心とした啓発活動

毎年 10 月に全国的に展開される「普及啓発促進月間」に合わせ、10 月 14 日(土)を「三重県シルバーの日」と定め、地域の実情に応じた美化活動・街頭宣伝活動等を実施し、地域住民に対してシルバー事業の PR を行った。県内 23 センターで会員 2,307 名が参加して、地域の学校、公園等の公共の場でシルバー旗掲揚のうえ、清掃活動等を行った。活動状況は地域のメディアに取り上げられるなどして、注目を集めた。

また、活動内容を取りまとめた冊子を作製し、取り組み内容をセンターや関係機関等に紹介した。

エ、広報・会員募集活動

29年度では県内1所の商業施設においてセンターと連携協力し、広報・会員募集活動を行った。また、四日市公共職業安定所等が開催する高齢退職者向けセミナーにおいてシルバー事業の紹介、会員募集を行った。

(4) 就業開拓推進事業

高齢者に相応しい臨時的かつ短期的又は軽易な仕事を組織的に確保・提供してゆくため、平成29年8月17日に25名の参加を得て、業務担当・就業機会創出員研修会を開催し、就業開拓分野の拡大についての具体的な手法を伝達することにより就業先の増加を目指した。また、行政広報等を活用した就業開拓にも努めた。

(5) 経験交流・研修事業

センターの役職員・会員を対象にシルバー事業の現状認識や課題等への取組みの進め方や資質の向上に係る事を目的とし、事業を行った。

ア、理事、事務局長、職員を対象とした分野別研修会を実施した。(新任理事研修、個人情報、会計実務)

イ、全シ協主催の安全・適正就業指導員会議、福祉家事担当者会議、東シ協開催の経験交流大会への積極的な参加を勧めた。

(6) シルバー事業未設置町の解消及び加入促進等

県内のシルバー未設置2町のうち、度会町社会福祉協議会から設置についての聞き合わせがあり、設置の場合は支援を行うこととした。任意団体であるシルバー人材センターには三重県と協力して法人化・国庫補助団体への移行のための相談を受けるとともに、支援を行った。

(7) 指導相談事業

センターの円滑な事業運営を図るため、三重労働局と三重県が実施する法人シルバーの指導監査に立ち会うとともに、個別指導を10センターに対して実施した。

(8) 福祉・家事援助サービス事業

福祉・家事援助サービスの業務は、従前よりシルバーの伝統的ともいえる家事援助サービスを主体として運営しており、さらに新たな介護予防・日常生活支援総合事業(新総合事業)に対する参加推進を行ってきた。従来型の家事援助サービスは一定利用がされているが、新総合事業では参入にあたっ

て介護業務関係での知識・経験が要求されるため、実際に業務を行うセンターは一部に留まっている。このため、参入については今後の検討課題となっている。

こうした事から、連合会に設置している福祉・家事援助サービス事業推進委員会では事業推進基本計画に基づき課題や改善について検討をすると共に、次の事業を実施した。

ア、「シルバーいきいきフェスタ 2017」を、会員主体で組織された運営委員会を中心に会員参加型イベントとして平成 29 年 10 月 25 日に三重県文化会館にて開催した。内容については、経験発表、アトラクション、パネル展、作品展示、即売会、体験コーナーのほか、「お腹から声を出して元気になりましょう」と題して、東海テレビ放送株式会社の庄野俊哉氏の講演など、多彩な催しを行い、参加者は 450 名であった。

イ、「福祉・家事援助サービス月間」の取り組みでは、奉仕活動を中心として各センターが工夫を凝らして実施し、15 センターで 605 名が参加した。

ウ、子育て支援事業の推進のため、情報提供・助言を行った。

エ、高齢者活躍人材育成事業技能講習の場で普及啓発を行うとともに、福祉家事援助サービス事業に携わる会員の拡大を行った。

(9) 有料職業紹介事業

現在 15 センターが連合会事務所として開設しているが、実際に有料職業紹介を行ったセンターは無かった。今後については派遣労働者を対象として紹介予定派遣を行おうとするセンターが見込まれる。

職業紹介責任者講習会

平成 29 年 12 月 19 日、大阪市、 4 センター 5 名参加

2 高齢者活躍人材育成事業

人手不足分野や現役世代を支える分野での高齢者の就業を促すため、センターの協力を得ながら技能講習を実施した。

(1) 技能講習の実績

平成 29 年度に実施した技能講習は、次のとおり 14 講習を 40 会場で開催した。受講開始者数は 602 人で、三重労働局より示された目標値 361 人を上回った。修了者数は 588 人であった。

29年度技能講習実施状況

講習名	実施回数	受講開始者数(人)	修了者数(人)
パソコン基礎	3	62	58
育児サポーター	3	38	32
調理補助	3	33	33
福祉有償運送運転者	1	17	17
介護職員初任者研修	1	13	13
介護補助員	3	37	37
剪定	5	85	85
刈払機取扱	5	74	74
チェーンソー取扱	3	62	62
農業スタッフ	1	17	16
緑地管理	1	15	15
接遇・マナー	3	44	41
安全運転	7	80	80
芝生管理	1	25	25

(2) 修了者に対する追跡調査

講習修了者を対象に、シルバー従業状況について関係センターの協力のもと、調査を実施したところ、シルバー就業延べ人員数 27,272 人日となった。

なお、受講を機に会員となった者は41人であった。

(3) 企業ニーズの把握

企業別に300事業所を抽出し、企業ニーズ把握のためにアンケート調査を行うとともに、シルバー人材センターの積極的活用について依頼を行った。

(4) 周知・広報活動

高齢者を対象とした各種会議・研修会及び公共職業安定所主催の就職面接会などを通じて育成事業の説明を行い、シルバー会員にはパンフレット・チラシ等の配布により周知・広報を行った。

なお、活動内容は次のとおりである。

ア、「技能講習のご案内」パンフレットを18,000部作成し、受講者を募集した。

イ、「技能講習のご案内」ポスターを200枚作成し、県下公共職業安定所、各市町及び各センターにて掲示依頼を行った。

ウ、ホームページに育成事業の内容を掲載した。

3 地域就業機会創出・拡大事業

伊賀市シルバー人材センターの「伊賀市空家等維持管理サービス事業」が平成29年7月開始分の地域就業機会創出・拡大事業として採択された。